様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２１年　５月１２日現在

研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2006～2008
課題番号：１８３３０１６０
研究課題名（和文）　魯迅『解剖学ノート』の解読に基づく、２０世紀初頭の留学生教育に関する事例研究
研究課題名（英文）　Case Study on Foreign Student Education in Japan in the Early 20th Century based on the Decipherment of Lu Xun's "Anatomy Notebooks"

研究代表者
島途　健一（SHIMATO　KENICHI）
東北大学・大学院国際文化研究科・教授
研究者番号：70128429

研究成果の概要：中国の文豪魯迅はかつて仙台医学専門学校に学び、藤野厳九郎教授の懇切丁寧な指導のもとに『解剖学ノート』を作成した。これは現在中国で国家一級文物（国宝）に指定されているが、その研究は未だ手つかずのままであった。本研究はこれを所蔵する北京・魯迅博物館と連携しつつ、広く市民・学生ボランティアの協力を得て、魯迅『解剖学ノート』を解読・翻刻した。合わせて、藤野厳九郎の生涯と業績にも焦点を当てながら、藤野による魯迅への教育指導の核心部分を確定するとともに、当時の医学教育の実態を解明した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００６年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
２００７年度	3,900,000	1,170,000	5,070,000
２００８年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
年度			
年度			
総　計	13,900,000	4,170,000	18,070,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育社会学
キーワード：魯迅、解剖学ノート、藤野厳九郎、留学生教育、医学教育、仙台医学専門学校

１．研究開始当初の背景

現代中国文学を代表する作家である魯迅は、1904 年から 1906 年にかけて、現在の東北大学医学部の前身、仙台医学専門学校に学んだ。仙台医学専門学では、解剖学の教授、藤野厳九郎が、魯迅に講義筆記ノートを毎週提出させ、加筆訂正して返却するという、極めて熱心な指導を行った。魯迅は留学途中にして医学を捨て、文学の道へと転向したがゆえに、藤野教授の懇切丁寧な指導に直接報いることはできなかった。しかしその熱心な指導に深く感激し、終生忘れず、自分の書斎の壁に藤野教授の写真を掲げて仕事に倦んだ自分を励ましたという。そのことは魯迅自身が後年の作品『藤野先生』のなかで言及し、藤野教授への尽きない尊崇と敬愛の心情を

述べている。この事例は、その後に引き起こされた日本と中国の不幸な歴史のなかで心温まる日中友好交流のひとこまとして記憶され、また日本における最初期の留学生教育の証として語り継がれてきた。

しかし魯迅が医学から文学へと転向した経緯については未だに十分な解明がなされたとは言えず、仙台医学専門学において魯迅が作成した講義筆記録『解剖学ノート』は、中国で国家一級文物（国宝）の指定を受けながら全く手つかずのままであり、中国国内で数度刊行された魯迅全集にも一度として収録されたことはなかった。

魯迅という人間の進路を決定的に変更させることになった経緯を解明するには、単に歴史的事実の実証的研究ばかりではなく、文学者としての魯迅の業績を詳細に分析し、跡付けることによる魯迅のアイデンティティ意識の実存的な検討が必要となるのであり、それは作品と史実との両面にわたる徹底した内在的検討を加えることによって初めて可能となろう。こうした問題の前進的解決をめざして、仙台在住の多方面にわたる研究者らが魯迅研究プロジェクトを組織し、その成果を『魯迅と仙台』（東北大学出版会、2004年、増補改訂版 2005 年）として発表することによって、医学教育史的・作品論的に斬新な知見を示しつつ、魯迅研究に新たな可能性を開拓した。これは中国北京・魯迅博物館の高い評価を受け、その斡旋で中国大百科全書出版社から中国語訳が刊行されることになった。またこの中国語版の刊行を記念して、東北大学、魯迅博物館、在中国日本大使館、仙台市の共催、ならびに中国人民大学、朝日新聞社の後援による国際シンポジウム「魯迅の起点:仙台の記憶」(1995 年 9 月 27･28 日、北京・魯迅博物館）が開催された。シンポジウムのタイトルは、中国の偉大な文学者である魯迅が、医学を捨て文学者の道を歩み出したのが留学先の仙台の地においてであり、仙台が作家としての魯迅のその後の輝かしい進路の起点となった土地であったことを念頭に置いている。

以上の経緯を受けて、2005 年 10 月、東北大学は、魯迅『解剖学ノート』のレプリカおよびそのデジタル複製版（CD）を魯迅博物館から贈与されることとなった。国家一級文物（国宝）の指定を受けている『解剖学ノート』は、これを所蔵保管する魯迅博物館の研究者であっても、自由に接して活用することはできなかったものである。

魯迅が仙台医専で藤野厳九郎から解剖学の教育を受けた明治期末期は、わが国医学界でドイツ解剖学書の優秀性が認識され、ドイツ医学書が定着した時期に該当する。当時、日本国内では系統的な解剖学書は出版されてはいたが、実習書はまだ世に出ていなかった。ではこの時期、医学生の初期教育は具体的にはどのように行われていたのか。当時のカリキュラムはどうであり、授業はどのように進められ、当時の先端研究はどのように伝授されていたのか。――これらのテーマを具体的かつ詳細に明らかにした研究は殆ど例がない。魯迅の『解剖学ノート』は、この時代の解剖学を中心とした医学生の初期教育の実態がどういうものであったかを詳細に記録する極めて貴重な史料でもあり、その正確な解読・翻刻は、こうした医学教育史研究の欠落を埋めるだけではなく、今日の医学教育のあり方を検討する上でも貴重な示唆を与えるものである。

２．研究の目的

本研究の目的は、魯迅『解剖学ノート』を解読・翻刻して全面的な学術的利用に向けた基盤整備を行うとともに、特に魯迅にとって大きな意味を持つことになった藤野厳九郎

の教育指導を確定して、その医学教育史上の、またそれを踏まえて魯迅の精神史上の意義を明確にし、今日における留学生教育への指針の一端を導出するところにある。

藤野厳九郎の医学・解剖学教育の核心部分、特に魯迅をして藤野を生涯の師であると言わしめた教育方法、精神を具体的かつ詳細に解明し、今日の留学生教育に生かす教訓を探ろうという構想そのものが内外の研究史でおよそ考えられたことはなかった。ここに本研究の学術上の特色、独創性がある。

そもそも日本教育史の中で極めて興味深い実例を示している『解剖学ノート』の解読そのものがほとんど未踏の領域であり、この巨大な分野を制覇することは学術的に極めて重要な足跡を残すものであるが、本研究はさらに踏み込み、魯迅という人間が現代中国作家としてあまりにも偉大であるがために従来看過されてきたテーマ、すなわち無名の一留学生が当初の意図の変更を余儀なくされることによってまさに人類の貴重な財産を生産してゆくという逆説的な過程を解明し、新たな見地から教育の果たすべき機能の一端を再検討することをめざした。

３．研究の方法

東北大学は魯迅博物館との協定によって、学術利用に関する限り、魯迅の『解剖学ノート』の写真挙示、また解読・翻刻を自由にできる立場にある。これを総合的に研究するために、本研究グループは中国文学研究者だけでなく、解剖学者、教育学者、情報学者等を擁し、大学から委嘱を受けるというかたちで『解剖学ノート』の解読・調査・研究にあたった。さらにまた、『解剖学ノート』は漢字カタカナ混交で多数の作図を含み、全 6 冊 900 頁と浩瀚なものであるため、多方面の分野の研究者、有識者、愛好家らに呼びかけ、市民・学生のボランティアを含む解読チームを組織した。およそ 30 名からなる解読チームはさらに小グループに分かれて、『解剖学ノート』のそれぞれの冊子を担当し、各グループが随時進展状況を確認し合いながら作業を進めた。

解読・翻刻では紙ベースのものと共に、比較検索を容易にするため、デジタルバージョンを同時並行で作成した。そしてこれらを紙ベースのものだけではなく、CD に収め、情報を電子化することでその活用可能性を拡大し、魯迅の研究者ならびに愛好家等、一般のアクセスが可能なようにした。

藤野厳九郎の生涯・業績・教育方法に関しては、福井県あわら市の「藤野厳九郎記念館」と連携して藤野厳九郎の遺品を含む関係資料を調査し、藤野厳九郎が仙台医学専門学校を退職した後に郷里で開業医をしていた当時の関係者に聞き取り調査を行った。また東北大学が所蔵する当時の医学教育・カリキュラム等に関係する資料等を調査した。

以上の研究遂行を円滑に進めるために、研究分担者、連携協力者、市民・学生ボランティアを交えて随時研究打合せを行った。さらに中国北京・魯迅博物館、上海・魯迅記念館等の関係施設と連絡を取り合い、情報を交換するとともに、研究の進め方等について検討した。

４．研究成果

魯迅『解剖学ノート』については、魯迅の地の文だけではなく、それへの藤野厳九郎を中心とする第三者の手入れを逐一具体的に解読しつつ、術語訂正の具体例や『藤野先生』で言及されている解剖図に対する訂正の性格、措辞修辞、句読点への訂正、ニュアンスの補足、内容の詳細化、臨床に関する注意事項、ラテン語やドイツ語の訂正、名称の補足等を具体的事例に即して検討し、魯迅に多大な感動を与えた藤野の教育方法とその精神の核心部分を明確にした。その際、同級生小野豊

三郎の解剖学ノートと比較して魯迅『解剖学ノート』の随所に見られる省略、簡略化を補い、原典ならびに当時刊行されていた解剖学翻訳書と照合することによって、魯迅『解剖学ノート』の記述のそもそもの出所、従ってまた藤野厳九郎の解剖学が依拠した原典を特定した。これに付随して、魯迅「解剖学ノート」の構成、当時の仙台医学専門学校のカリキュラム、授業方法、採点評価方法等を調査研究した。以上によって魯迅『解剖学ノート』への藤野厳九郎の添削内容ならびに教育指導の特質を包括的に跡付けた。

『解剖学ノート』の一冊にして藤野厳九郎の添削が最も多く見られる『脈管学ノート』に関しては、翻刻・デジタル化作業を完了し、その成果である『魯迅 医学筆記《脈管学》』を東北大学100周年記念事業の一環として刊行した。この図書には日本語・中国語による解題も附した。これは魯迅『解剖学ノート』の医学史・医学教育史上の意義を内外の研究史上初めて本格的に論じるものとなった。

藤野厳九郎が母校の愛知医学校でどのような医学を学んだのか、藤野の研究成果にはどのようなものがあり、その水準は当時の学界でどのような位置にあったのか、またその生涯はどうであったのか、等を、藤野厳九郎記念館（福井県あわら市）ならびに東北大学所蔵の原資料を調査し、また生前の藤野と交渉があった関係者に聞き取り調査を行って、藤野の日常生活や家庭環境等をも含めた多角的な視点から解明した。それによって藤野厳九郎の人物像が包括的に浮かび上がり、魯迅と藤野との交渉の在り方が、単なる師弟の関係を超えた人間的・実存的レベルから明らかになった。

以上の研究成果をとりまとめ、『藤野先生と魯迅』（東北大学出版会、2007年）として公刊した。またこれを中国語に翻訳して中国で出版した（华侨出版社、2008年）。

以上の調査研究の他に、東北大学100周年記念事業の一環として、平成19年8月に特別展示「藤野先生・魯迅・東北大学」を、9月にシンポジウム「魯迅と東北大学の留学生教育」を関係機関と協力して開催した。また、平成20年2月に開催された国土交通省東北運輸局主催の「魯迅展」に最新の知見をもって協力した。さらに平成20年9月には中国・西安市の西北大学で学術シンポジウムを行い、また同校においてパネル展示「魯迅と仙台」を行った。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２２件）

①坂井建雄、「魯迅が仙台で受けた解剖学史の講義について」、日本医史学雑誌54、査読有、pp.359-372、2008

②大村泉、窪俊一、島途建一、「東北大学魯迅研究プロジェクト概要――仙台、芦原、中国」、西北大学魯迅国際シンポジウム論文集、査読無、pp.1-3、2008

③花登正宏、「『洪武正韻彙編』在中国辞書史上的地位」、語苑擷英（二）、査読無、pp.269-279、2007

④刈田啓史郎、「魯迅の解剖学ノート（藤野先生から指摘された美術的解剖図について）」、季刊中国No.88、査読無、pp.55-60、2007

⑤坂井建雄、「从魯迅医学笔记看医学专业学生魯迅」、魯迅研究月刊（北京・魯迅博物館）2007年11号、査読有、pp.4-18、2007

⑥坂井建雄、「明治後期の解剖学教育――魯迅と藤野先生の周辺」、解剖学雑誌No82、査読有、pp. 21-31、2007

⑦島途健一、「从周樹人到魯迅」、魯迅研究月

刊（北京・魯迅博物館）2006 年 6 号、査読有、pp.59-64、2006

⑧大村泉、魯迅「『藤野先生』について――『藤野先生』(1926 年）は「階層的散文」（史実）かそれとも作品（小説）か？――」、季刊中国No86、査読無、pp.19-36、2006

⑨花登正宏、「魯迅的経済生活」、魯迅研究月刊（北京・魯迅博物館）2006 年 5 号、査読有、pp. 26-36、2006

〔学会発表〕（計５件）

①坂井建雄、「解剖学研究者所看到的魯迅课堂笔记」、日本東北大学・中国西北大学魯迅研究国際学術会議、2008年9月22日、中国・西北大学

②坂井建雄、「魯迅が受けた 藤野厳九郎による解剖学史の講義について」、日本医史学会、2008年6月22日、佐倉市民音楽ホール

③大村泉、「魯迅と仙台」、内蒙古科技大学（包頭）、2008年2月27日、中国・内蒙古科技大学

〔図書〕（計３件）

①《鲁迅与藤野先生》出版委员会（大村泉、窪俊一、島途建一、他）編・著、北京・华侨出版社、『魯迅与藤野先生』、2008、242頁

②「藤野先生と魯迅」刊行委員会（大村泉、窪俊一、島途建一、他）編・著、東北大学出版会、『藤野先生と魯迅』、2007、224頁

③東北大学魯迅研究プロジェクト（大村泉、窪俊一、島途建一、他）編・著、東北大学出版会、『魯迅 医学筆記《脈管学》 附 翻刻・解題』、2007、306頁

６．研究組織

(1)研究代表者

島途　健一（SHIMATO　KENICHI）
東北大学・大学院国際文化研究科・教授
研究者番号：70128429

(2)研究分担者

大村　泉（OMURA　IZUMI）
東北大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：50137395

窪　俊一（KUBO　SHUNICHI）
東北大学・大学院情報科学研究科・准教授
研究者番号：50161659

坂井　建雄（SAKAI　TATSUO）
順天堂大学・医学部・教授
研究者番号：90114488

花登　正宏（HANATO　MASAHIRO）
東北大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：60107175

(3)連携研究者

高橋　満（TAKAHASHI　MITSURU）
東北大学・大学院教育学研究科・教授
研究者番号：70171527

阿部　兼也（ABE　KENYA）
東洋大学・文学部・教授
研究者番号：40005773

刈田　啓史郎（KRITA　KEISHIRO）
東北大学・大学院歯学研究科・非常勤講師
研究者番号：40004600

佃　良彦（TSUKUDA　YOSHIHIKO）
東北大学・大学院経済学研究科・教授
研究者番号：10091836

末松　和子（SUEMATSU　KAZUKO）
東北大学・大学院経済学研究科・講師
研究者番号：20374887

張　立波（CHO RIPPA）
東北大学・高等教育開発推進センター・講師
研究者番号：60455863

千野　拓政（CHINO HIROMASA）
早稲田大学・文学部・教授
研究者番号：50216561

呉　念聖（GO NENSEI）
早稲田大学・法学部・客員准教授
研究者番号：70434222